



校長室だより

令和4年度
11月25日
NO. 7

一人も見捨てず なかよく学ぶ 修学旅行

今年の修学旅行は、11月16、17日に実施されました。一昨年、昨年は公共交通機関を利用しましたが、今年は「バス」にしたので時間を効率的に使うことができました。

「一人も見捨てず なかよく学ぶ 修学旅行」とは、6年生の子供たちが考えた今年度の修学旅行のテーマです。「一人も見捨てない」という言葉がテーマに入っていることは、とても嬉しいことです。これは、秦梨小のすべての教育活動に通底する理念だからです。以前にも申し上げましたが、「教師が一人の子供も見捨てない」のは、当たり前のことです。

「一人一人の子供が友達の誰一人も見捨てない」というところに秦梨教育の目指すところがあり、他に誇れる特色だと思っています。このテーマを子供たち自身が考えて決めたことに大きな価値を感じています。

さて、実際の修学旅行は天候にも恵まれ予定通りに実施することができました。今年は規制緩和や旅行支援の影響もあって、どの見学地も人が多く混雑していましたが、全員無事に楽しい旅行にすることができました。子供たちの努力はもちろんですが、綿密な計画、緻密な下見をしてくれた3名の6年担当職員や旅行社の方のお陰だと感謝しています。

本年度の旅行の大きな特色は「高台寺のナイトウォーク」を取り入れたことです。京都の風情が色濃く感じられる東山。ライトアップされた高台寺は特に美しく幻想的で、子供たちの心に残ったのではないのでしょうか。

旅行中の子供たちの様子は、節度ある行動ができていて大いに褒めたいと思います。学校生活の中で常々言っている「自ら考え、判断し、行動できる」ということが、旅行中もできていたことが素晴らしい。添乗員の方から聞いたのですが、旅館の方が、「気持ちのいい挨拶ができ、きちんと行動できる素敵な子供たち」と褒めてくださったそうです。旅館の方が、私にではなく添乗員さんに言われたのだから本当にそう思ってくださいたのでしよう。間違いなく誇れる6年生です。



発光生物の特別授業！

本校では、今年度から4年生の総合的な学習の時間で「ホタル」をテーマにした学習に取り組んでいます。河合中で育てたホタルの幼虫をいただいて、校庭東側の水路に放流したところ、5匹のホタルの飛翔が観測できました。来年度はもっと多くのホタルを飛ばそうと、子供たちが考えてくれているところです。

さて、去る11月4日に、ホタルに代表される発光生物研究の第一人者である中部大学の
大場裕一教授をお招きして、4、5、6年生を対象に「光る生き物」についてご講演いただきました。その中で、校庭に出て子供たちと一緒に「ホタルミミズ」を探すフィールドワークもありました。ホタル以外にも「ホタルミミズ」といって光るミミズが身近にもいると聞き、驚きでした。気温が高かったせいもあって、残念ながら今回は採取できませんでしたが、中部大で採取した「ホタルミミズ」を使って、発光する実際の様子を見せてくださいました。また、乾燥させたウミホタルに1滴2滴の水を注ぐと、青く発光する様子も見る事ができました。それぞれが光る様子に驚きの声をあげる子もいて、楽しく「光る生き物の不思議さ」を学んでくれたと思います。

今回は残念ながら「ホタルミミズ」を採取できませんでしたが、「もっと寒くなればきっと見つかりますよ」と大場先生は仰っていました。また、ホタルミミズを探すとき、校庭の地中からカエルやサワガニが出てきたことを取り上げ、「素晴らしい自然環境の中で教育を受けている子供たちが羨ましく思います」とも言われ、嬉しくなりました。秦梨で教育活動ができる幸せを改めて感じているところです。

秦梨小が大切にしている「ふるさと学習」

秦梨小の「ふるさと学習」は、これまで伝統的に行われ重視されてきました。これからも大切にしていきたい学習活動であると思っています。

その学習の柱として、主に5年生が担当する「稲作」があります。今年も田の先生である鈴木清美さん、早川健さんのご指導・ご支援を賜り、ミネアサヒの栽培に取り組みました。収穫した米は学芸会の折に販売し、多くの保護者の方々にも御協力いただきました。



8日は、お二人の先生をお招きして、5年生がアイデア豊かな収穫祭を実施してくれました。また15日は、お二人から3年生が「こんにやく作り」を教えてくださいました。地域の方々のお陰で充実した「ふるさと学習」ができています。有り難いことと感謝しています。